

茨城かたくりの花



筑波山頂のカタクリ(2009年4月7日)

私の住んでいる茨城県には4箇所のカタクリの里が紹介されています(旅NAVI!茨城:茨城県の観光キャンペーン冊子)。これらは筑波山頂、水戸市有賀町、大子町(奥久慈茶の里公園)、北茨城市(水沼ダム)にそれぞれあります。どこもそれほど大きな群生地ではありませんが、4月初旬にはカタクリ祭りなどを行っているところが多いようです。いずれの場所も「かたくりの里」という名称がつけられているのが印象に残りました。かたくりは里が良く合うのでしょうか。

これ等のうち、筑波山頂のカタクリの撮影について記します。筑波山は標高1000メートルに達しない低い山ですが深田久弥は日本百名山に選んでいます。百名山に選んだ理由はその歴史の古さと美しさと思われます。しかしながら、この山のカタクリの花は「がまの油」ほど有名ではありません。

つつじが丘駐車場から女体山山頂を目指して登り始めました(ロープウェイで行くことも可能です)。筑波山には何回も登っていますが、前回の印象は薄く、こんなに急坂だったかななどと思いながら50分ほどで女体山頂上に着きました。この時期には途中の道端に咲く花も少ないため、カメラをバックから出すこともなくゆっくり歩いて50分程度でした。しかしながらカタクリの咲いている場所は、さらに男体山に向かって、15分程度下った御幸ガ原という場所にあります。

御幸ガ原の斜面には丁度開花の時期を迎えた多くのカタクリが迎えてくれました。かたくりの里遊歩道と書かれた道を進むと、一面に自生のカタクリが咲いていましたが、一部は祭りのために、通路の近くに移植したと思われるものもありました。祭りのために苦労していただいている人の姿が浮かんできました。観光客は筑波山カタクリの花まつりと書かれた幟の数

より少ないくらいで、静かに撮影することが出来ました。観光客は平日の午後であることもあって、年配の方が多く見受けられました。このはなを撮影するために来たのだといって携帯電話のカメラを広げる中年(過ぎ)のご婦人や、「いいカメラを持っているね」と褒めてくれる中年(過ぎ)の男性の方など、此処を訪れる方は皆カメラ好きで、いい人ばかりのように感じました。

カタクリは丈の低い植物で、その顔を写真にとるには低アングルのアプローチが必要です。しかしながら、天気の良いときは6枚の花弁を反らせて、長く美しい蕊を誇示するように見せてくれます。葉は2枚という珍しいもので、それぞれに黒紫の染みがついているように見えます。最初は霜などで葉が痛んでいるものと思っていたましたが、どうもこれがカタクリの葉の姿のようです。

茨城ではカタクリの花は桜(ソメイヨシノ)と同じ頃咲きます。このため山の斜面の、その他の草花はまだ芽を吹いていません、北国では雪解けとともに咲くようですが、もしも真白な残雪をバックは咲いたならば綺麗であろうと想像します。

山の下りは30分程度でした。御幸が原から車で筑波山神社の方に向かって走りましたが、道の両脇には満開の桜が数多く見られました。つくば市や土浦市のはずれを通って、土浦北インターに向かう途中でも、多くの桜群生地がありました。それぞれの場所で、地元の人か観光客か判りませんが、桜を眺めたり、記念写真を撮ったりする姿が目に入りました。今回はカタクリの撮影が目的だったため、いずれも素通りして高速道路に入りました。

撮影 2009年4月7日

ホームページにアップ 2009年4月23日、